ご挨拶

高知県高等学校文化連盟

会長　　川田　弘人（高知県立窪川高等学校）

高知県高等学校文化連盟は、県内の高校生の文化芸術活動を支援し、活動の充実、水準の向上に向けて様々な行事や研修会、講習会を開催し、必要に応じて文化芸術に関する調査研究を行っています。

長く続いた新型コロナウイルス感染症の制限は徐々に緩和され、以前のような学校生活に戻りつつあります。振り返ると生徒たちは2022こうち総文の直前に生活様式が一変し、不自由な３年間を過ごすことになりました。しかし、この３年間、ICTの活用や非接触によるオンデマンド、ライブ配信など、新たなコミュニケーションを経験しました。そもそも文化芸術は、創造から新たな価値を見付け、美を認識することで更なる創造を生みだす人類の果てなき感動の転生だと思います。人は感動の度に新たなコミュニケーションを創造しますから、コロナ禍での生活様式などの経験は、その創造に大きな影響を与え、文化芸術を次のフェーズに向かわせることになると私は予感しています。もちろん高校生にとっても新時代の扉を開く機会になったと思います。

本年度の県高文連の活動は、いくぶん活動制限が緩和される中、各部門ともコロナ禍以前に遡りつつ、新たな取組に挑戦してきました。また、令和５年４月からのＮＨＫ朝の連続テレビ小説「らんまん」に因んだ牧野博士を題材とする取組もありました。全国ではコロナ禍の影響を受けながらも準備してこられた「とうきょう総文2022」（第46回全国高等学校総合文化祭東京大会）が令和４年7月31日（日）～8月４日（木）に開催され、東京都の高校生のたくましく溌溂とした姿に感動し、総合開会式や各部門に参加した関係者や代表生徒にも大きな刺激となりました。2022こうち総文から一歩を踏み出した本県の生徒が、次の世代に文化芸術のバトンを繋げられるよう、高校生の文化活動の意義を高めていきたいと思いを新たにしました。

令和４年11月８日（火）に高知県立美術館ホールで開催した第45回高知県高等学校総合文化祭開会式においては、次世代の高校生を育成する取組として中学生を加えたミュージカル上演が企画されました。また、昨年同様に限られた時間の中で生徒実行委員会が開催され、「集え！あなたの色で彩る青春　輝け！私たちの文化部魂」を大会テーマとして実りある開催となりました。今後も中学生への取組と生徒実行委員会の継続によって、魅力ある、また、生徒の励みとなる総合文化祭にしたいと考えています。

令和５年度は、全国高等学校文化連盟研究大会徳島大会が開催され、2022こうち総文で行ったWEB SOUBUNについて発表を行うことになりました。今後の全国大会がさらに発展するように繋げてまいります。

最後になりますが、高校生の文化部活動や地域文化の発展に対して、高知県教育委員会をはじめ、高知県中学校長会、高知市立小中義務教育特別支援学校長会、各専門部の会長・部長・理事、そのほか多くの関係者からご支援・ご協力をいただき、厚く感謝と御礼を申し上げ、発刊に寄せるご挨拶とさせていただきます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和５年３月３１日